

庭の番人ゝはるゝ

## 風・音・かおり

土橋 光子

やわらかく、ふっくらとした風がとおって  
いくと、桜の枝の細いさきがかすかにゆれ  
る。

心が弾むような日が続くようになって、縁  
側で仰向いて空を眺めていると、我が家の猫  
が、長い尾をびんと立てて、そっと体をすり  
寄せてくる。尾の毛さきがふるえて、微かな  
風がいっしょについてきたようです。

風って通りぬけると帰ってこないのです  
ね。つむじ風でも渦を巻きながら、やっばり  
いってしまいます。何かが動くとき必ずそこに  
一緒にいる風、私の神経が何かを感じると風  
を見るのです。やわらかいかぜ、かすかなか  
ぜ、こっそりかぜ、この風たちは、ほとんど  
音をださないようです。耳にとらえにくいお  
となのでしょうか！でも音は風と一緒に旅

をしていて、風のそほにいろはずだと思つうのです。風と音が一緒にいるとはつきり解る時つて、やや強く吹く風、荒々しい風、ひきちぎるようになり過ぎていく風、葉を散らし、鉢植えを倒し、荒々しい音と共に、無残な姿をおいていきます。でもこんな凄まじい風は、春には少ないようです。心で感じて見つけてほしいような風と音をさがして見ましょう。

桜の蕾がふくらみはじめ頃、あちらこちらで「むく、むく」という音がかすかにして見る間に花芽が開きはじめます。やわらかい風にさそわれるように、しつかり重なりあっていた萼が囲みをときはじめると、薄紅色の花びらをのぞかせはじめます。二週間ぐらいで二分咲きぐらいでしょうか、それから二週間ぐらいで満開です。

#### 九一ねん四がつ。

春風にさそわれて散る頃になりますと、急に通りがにぎやかになり、風にのっていろいろの音がはこばれてきます。

朝です。「きれい」。足音が止まって少しの間かすかに人の動く気配があつたが、又忙しく去っていきます。タラッタ、タラッタとスキップをするような軽い小さな靴の音です。止まると何かを追いかけるような音に変わつて、桜の木の下のを往ったり来たりしています。この時期から朝の日課の庭掃きがだんだん忙しくなります。桜の散るやわらかい音、さつ、さつ、と道を掃く箒の音、車の輪の下敷きにならないうちに、なるべく早く集めてやりたいと心がせきます。夜から朝にかけて散つた花びらです。可愛らしいピンク色の小さい山ができました。若い人たちが砂山をつ

くるぐらいの、花山です。そつと側溝へ片寄せておきましょう。スキップの靴音を通ったら、きつと止まって、両手にすくって、又ぱつと散らしていくのでしょうか……。

満開になった頃、ポツリ、ポツリ、雨です。ひと雨くると花には終わりが近づいてきます。毎年のように繰り返される花の季節の美しいさまがわりの時に聞くおと。ぱつと生まれてきて、盛りを迎え、かぜと遊んで、はしゃいでは野鳥を呼び集め、蜜を与えるのに、チクリと蜜ぼうのところから喰いちぎられて丸ごと散っています。小さな靴音がして四・五人の女の子が散り敷いた花びらに駆け寄ってきます。

「わあ、ぜんぶはなびらがついてるー！」  
そつと手のひらの上のせ、ハンカチを出して包む、やさしい音がきこえるような光景

です。

それから一週間ぐら以後、本格的にハラハラと散りはじめます。ささっ！と吹くと大変なさわぎです。花びらの騒ぎなんて聞いたことがありませんか？ 静と動の音が同時に入りまざって聞こえてくるのです。昔の人はおともなく桜の花が散るとめでた人もいました。心の中で静音をきいて楽しんだのでしょうか？

かすかな風に誘われて一枚一枚わかれています。花びら、学校帰りの低学年の女の子が両手を広げて、くるくる回るようにおどると、花びらは大急ぎで、そよ風にのって舞い上がる。隣の子がそれをつかまえようと追いかけています。散らす、追う、舞い上がる、つかまえる。ほんのひと時の騒がしさですが、確かに楽しい音が聞こえてきます。つい誘われ

て外に出ていきますと、驚いて、はにかむように花を見上げてしまう眼。

「つかまえられた？」黙って首を左右にふる。

「おばあちゃんの大きな手でもだめかしら！」

私もつい夢中になって行動をおこすと、子どもたちも又おいはじめめる。

「あつ、とまった！」「おばあちゃんのあたま」

「ほんと！」と、しゃがみこみながら子どもの方に頭を出す。小さな指が私の髪の上からそっと一枚つまんで渡そうとする。

「もらっていつて！」

「いいよ！ またつかまえよう！」

片方の手を広げて走る。風も、音も、動きも全部がごちゃませになって過ぎていった数分

間でしたが、明るくて、さわやかな、花の下の出来ごとでした。子どもたちはランドセルをカタカタいわせながら「さよなら又あした」「さよなら、又ね！」

次の朝は雨でした。学校帰りの頃になると、散った桜の花びらが側溝に花筏のように並んでゆるゆると流れていました。春のひと時が終わろうとしています。

風と音とかおり、などと書いたのですが、かおりにふれていません。桜の花は木の上ですのでほんとかすかな匂いです。

子どもの両手一杯に盛られた花びらからならかぎとれるでしょう。風と音に夢中になっていた私は、両手に自分達の鼻を近づけてみることを言いませんでした。ハンカチ一枚に包んでそっと持ち帰った花びらが、ままごとのご馳走にでもなった時、そっと匂いを感じ

てくれればと願いました。

自分の五感をとおして伝わってくる、風・音・かおりなどを心の深いところでもとらえられるようになったら、そこに私の前進があると思います。

違う環境に入ってしまった今、私の周りを

通り過ぎていく小さい人たちと、何時までもつながっていられるかすかな風のような気がします。風は何処からともなくやってきて別れていきます。でも又新しい風を迎えられるように心を澄ましていたいと思います。

(元・武蔵野相愛幼稚園)

